



「SDGsの実現には考え方のアップデートが必要」と話す武田さん

11月24日

## ふるさと学習の取り組みを発表 明日の青少年を考える集い

町を担う青少年の育成を図る「明日の青少年を考える集い」が社会福祉センターで開かれました。

ふるさと学習報告会では、白糠学園の武田姫奈さんが、捨てられるものに新たな付加価値を持たせて再利用する「アップサイクル」に注目し、海洋ごみとなっている漁網を使ったエコバックの商品化を提案。「アップサイクルでSDGsに貢献できる」と話しました。

12月1日

## 事故のない町を目指して 交通安全町民大会

交通安全町民大会が社会福祉センターで開催され、町民約100人が交通安全意識の向上を図りました。

大会では、日本自動車連盟釧路支部（JFA）の澤田基志氏が「ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全」をテーマに講話。澤田氏は「町内でのエゾシカ衝突事故は、2022年からの1年で20件から40件に増加。夜間は必ずハイビームで走行して」と呼びかけました。



「町内シカ事故の増加率は釧路管内でトップ」と話す澤田氏

11月21日

## 未来世代応援アクションwithカズ 明治安田生命サッカーボール寄贈

明治安田生命から白糠学園にサッカーボール2個が寄贈されました。明治安田は、サッカー元日本代表の三浦知良選手と協力し「未来世代応援アクションwithカズ」として全国の子どもたちに三浦選手の背番号11にかけた11,000個のサッカーボールを贈っています。

この日は、釧路駅前営業所の永吉秀之所長が白糠学園を訪れ、須藤光秋校長にボールを手渡しました。



「ボールで遊び丈夫な体をつくってほしい」と話す永吉所長(左)



「購入者が人に勧めたくなる商品を考えて」と黒田社長(左)

11月27日

## 地域活性化について考える 白糠高校ブランディング講座

商品のブランド化を学ぶ「ブランディング講座」が白糠高校で開かれ、2・3年生が授業を受けました。

講師は、町内で水産加工会社を設立した黒田康平社長と「極寒ブリ」のブランド化に協力した漁師の木村太朗氏。黒田社長は「キロ単価172円のブリが、神経締めなどで2千円になります。ブランディングは付加価値をつけることが重要」と話していました。



1. 中村さん(写真左)の指導で塘内さんに背負い投げをする生徒 2. けさ固めをする生徒たち 3. 中村さんは「柔道は相手の力を利用することが大事」とアドバイス 4. 払い腰や大外刈りといった技を披露する中村さん

11月20日

## 技のコツを学ぶ 五輪メダリスト招き柔道授業

白糠学園の7、8年生が同校併設の武道館で、アトランタ五輪柔道男子71kg級金メダリストの中村兼三さんと、アテネ五輪81kg級に出場した塘内将彦さんを招いた保健体育武道（柔道）授業を行いました。

授業では「けさ固め」や「支え釣り込み足」などを行い、生徒たちは、両選手から技のコツや柔道の楽しさなどを学びました。



11月19日

## 認知症を正しく理解する 認知症サポーター養成講座

若い世代にも認知症を正しく理解してもらおうと、町職員が講師を務める「認知症サポーター養成講座」が庶路学園で行われました。

この日は7年生20人が授業を受け、脳の働きや認知症の人との接し方などについて学びました。グループワークでは「認知症の人には思いやりを持って、優しく接することが大事」などと話し合っていました。



認知症の人との関わり方について話し合う生徒



「子どもたちも喜びそう」と新メニューを味わう参加者

11月20日

## 新メニューを味わう 第2回給食試食会

給食への理解を深めてもらおうと、一般町民を対象とした「給食試食会」が総合給食センターで開かれ、町民9人が参加しました。今年度2回目。

この日のメニューは、新メニューの「シカ肉のトマト煮」のほか、バターライス、卵とポテトのサラダの3品。参加者は「シカ肉は食べやすくておいしいですね」などと話しながら、給食を味わっていました。